

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月24日
函館市立戸倉中学校

1 本年度の重点教育目標

主体的に学び合い、心豊かに、たくましく活動する生徒の育成
～戸倉ブランド「絆・校歌・文武両道」～

2 本年度の取組の重点

【学力向上】①確かな学力の育成……………探究型の授業へ向けた授業改善
②特別支援教育の充実……………支援を要する生徒への有効な支援の具体化
【豊かな心】③豊かな心の育成……………全教育活動を通して道徳教育を充実
④育てる生徒指導の推進……………自立と成長を促す「厳しくて温かい」生徒指導
【体力向上】⑤健康でたくましい心と体の育成……………体育活動全体を通じた健康・体力の保持増進
【地域連携】⑥地域学校協働活動・キャリア教育……………小中一貫へ9年間を見通したキャリア教育
【業務改善】⑦三気に満ちた教職員組織の構築と推進……………学び続ける「チーム戸倉」の構築
⑧業務改善の推進……………業務の効率化と業務時間の改善

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学力向上	①目標の提示やまとめにより生徒の主体的な学習を促すことができたか。	b	内容の焦点化と振り返りの時間を確保する授業への改善を図ることで、学習内容の定着に努めていく。	A	B	主体的な学習を促す方向性が見えにくい。保護者と生徒の意識にずれがないか検証が必要。
	②生徒の特性に応じた適切な支援を組織的に行うことができたか。	b	校内支援委員会を計画的に開催し、生徒の適切な実態把握と支援計画の作成に努める。	A	B	実態把握と支援計画を実際の支援につなげるため校内支援委員会では具体的な方策の検討が必要。
豊かな心	③「考え・議論する道徳」の実践により、いじめの未然防止を推進できたか	a		A	B	「考え・議論する道徳」の一層の充実により、いじめのさらなる防止に取り組んで欲しい。
	④生徒の集団への所属感・自己有用感を醸成することができたか。	a		A	A	
体力向上	⑤授業や保健指導、行事を通し、体力向上の取組を推進することができたか。	a		A	A	
地域連携	⑥三校連携を充実させ、9年間を見通した教育課程を共有することができたか。	b	コロナ禍のため、部会ごとのオンライン会議が中心となった。部会の交流を全体に広げていきたい。	A	A	目指す子ども像をしっかりと小学校と共有し、スムーズな進級・進学につなげて欲しい。
業務改善	⑦教職員が最大の教育環境であることを意識した業務の推進ができたか。	a		A	A	
	⑧子どもと向き合う時間確保のための業務改善を推進することができたか。	b	従来業務の一層の縮減に努めるとともに、より効率的な組織により時間の確保に努める。	A	B	働き方改革の中で家庭との一層の連携が不可欠。ミドルリーダーの役割など具体的な検討も必要。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。